

事務事業名	食育プラン推進事業	事業期間	2012 ~	年度	係内番号	01
担当部署	健康福祉部	健康づくり推進課	健康推進係	連絡先	330	

政策番号	01	基本計画①	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高						
		基本計画②	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業								
		実行計画	08	食育推進計画	0000	複数の柱にまたがる事業								
		項目		計画CD	計画名称	施策の柱CD			施策の柱の名称					
予 算 事 業 名		食育プラン推進事業費			会計コード	01	款	04	項	01	目	01	事業	08
事務事業の概要		食に関する知識や、食を選択する力を身につけ、健全な食生活を実践する人を育てることを目指して「第2次茅野市食育推進計画（第2次元気もりもり食育プラン）」を策定した。市民が健康を維持し、生涯にわたって元気で豊かに生活できるようにする。												
現状と背景		肥満、やせ、生活習慣病、低栄養によるイレウスなど、偏った食生活を原因とする病気や介護状態になる人が増加している。また、核家族化や、家族そろって食事をする機会が減り、食文化の伝承や食事のマナーを知る機会が減少している。												
目的	受益者	市民												
	対象	市民												
意 図	市民が、生涯にわたって健康を維持し、最後まで元気で豊かな生活を送る。													
手段・方法	「元気もりもり食育プラン」の概要版をあらゆる機会に配布しながらPRし、啓発する。食育推進キャラクター「3人の栄養マン」を活用しながら、バランス良い食べ方を普及し、実践するを増やす。若い世代への食育として、保育園、学校と連携し、広報、びーなネットやびーなチャンネルなどメディアを活用していく。特定保健指導や、重症化予防事業、乳幼児健診などで、個別の栄養相談を通して食育を実践するを増やす。食育講演会を開催し、食育への理解を深める。													
評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		1	食育イベントの開催	食育イベント参加団体数	団体	食育イベント出店、協力団体数				15				
		2	栄養マンパペット活用数の増加	栄養マンパペットの活用数	回					50				
	3	個別栄養指導受講者の増加	個別栄養相談者数	人	乳幼児、健診受診者、医療等からの依頼数				650					
	変更履歴													
	成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		1	望ましい食生活に取り組む人が増える	栄養関係講座受講者数	人					600				
2		食育イベント参加者の増加	食育イベント参加者数	人					350					
変更履歴														

実 施 状 況	財 源 内 訳	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	487,770	643,000				
		国庫支出金	円		82,000				
		県支出金	円						
		地方債	円						
		その他特定財源	円						
	活動指標	食育イベント参加団体数	目標	団体	15	15			
			実績	15					
		栄養マンパペットの活用数	目標	回	50	76			
			実績	76					
		個別栄養相談者数	目標	人	650	650			
			実績	620					
	成果指標	栄養関係講座受講者数	目標	人	600	600			
			実績	636					
		食育イベント参加者数	目標	人	350	350			
実績			350						
達成率		%	100.00						
達成率		%	100.00						
達成率	%	100.00							
備 考									

事務事業名	食育プラン推進事業		事業期間	2012 ~	年度	係内番号	01
担当部署	健康福祉部	健康づくり推進課	健康推進係		連絡先	330	

事業 評価 価値	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果 要因分析	栄養関係受講者数も、食育イベント&講演会参加者数も増加した。栄養関係講座は、糖尿病講座、郷土料理講座を新たに実施し、食への関心を深めてもらう機会になった。食育イベント&講演会では、体験したり、試食するコーナーを増やし、体を使って食育を学べるようにした。				
	総合評価	主な郷土料理に関する認知度20~70歳代68%から71%に、直売所の利用率は20~70歳代73%から75%に上がっている。栄養マンの認知度は、20~70歳代で、50%から57%に上がった。				
	課題	食育イベント&講演会は、9回目を迎え、定着した。300人を超える人が参加するようになったが、講演会では、若い聴講者を増やすこと、イベントでは、新しい企画を出していくことが課題である。				
改革・改善の方向性(ACIT)	成果やコストの方向性の内容	現状維持 現状維持				
策び容	特定保健指導や、集団の栄養指導を通じて、食の大切さを理解してもらい、実践に繋がるようにしていくため、保育園、学校、こども課との連携を密にしていく。そのために、食育栄養士会の内容を充実させ、栄養士の資質向上を図る。高血圧者を減らすため、栄養関係講座や、メディアを利用した食育PRに、血圧関係の話を入れていく。市民団体や、庁内関係課と連携して、食育イベント&講演会を開催し、食育を広く市民にPRするとともに、自分や家族の食を振り返る機会にする。					

作成担当者	堀 美恵				
最終評価責任者	柳澤 澄子				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	離乳食教室事業	事業期間	1999 ~	年度	係内番号	19
担当部署	健康福祉部	健康づくり推進課	健康推進係	連絡先	330	

政策 番号	01	基本計画①	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高						
		基本計画②	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業								
		実行計画	08	食育推進計画	0000	複数の柱にまたがる事業								
		項目		計画CD	計画名称	施策の柱CD			施策の柱の名称					
予 算 事 業 名		離乳食教室事業			会計コード	02	款	04	項	03	目	02	事業	01
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)		ごっくん離乳食教室：4～6か月の赤ちゃんと保護者を対象とし、年12回、健康管理センターで開催する。 もぐもぐ離乳食教室：7～8か月の赤ちゃんと保護者を対象とし、年12回、健康管理センターで開催する。 ぱくぱく離乳食教室：11か月～1歳2か月の赤ちゃんと保護者を対象とし、年6回、健康管理センターで開催する。												
現 状 と 背 景 (どうして)		生活様式の多様化、様々な情報が氾濫する中、子どもの頃からの生活リズムの乱れが目立つ。生活リズムは大人の生活、食事が関係していて、生活習慣病有病率の増加にもつながっている。食環境が多様化した中で、健康を維持・増進するために望ましい食品を選択する力、望ましい食生活を送る力をつける等健康意識を高め、実践していく必要がある。												
目 的	受 益 者 (誰のために)	市民												
	対 象 (直接働きかける)	市民												
	意 図 (どんな状態にしたいか)	離乳食について正しい知識を習得し、健康意識を高め、子どもや家族の健康増進のため望ましい食生活を実践する。												
手 段 ・ 方 法 (どうやって)	4か月健診・10か月健診及び広報で募集、各離乳食教室で次回のご案内、募集をする。 ごっくん：離乳食の話、調理デモンストレーション、試食、個別相談 もぐもぐ：離乳食の話、調理デモンストレーション、調理実習、試食、個別相談 ぱくぱく：離乳食の話、歯の話、発達の話、手づかみメニューの試食、個別相談 (ごっくんともぐもぐは同時開催)													
	行政が活動することで作り出すもの													
評 価 指 標 の 作 成	活 動 指 標	1	教室開催による食生活及び離乳食の理解の向上	教室実施回数	回	教室実施回数	18							
		2												
		3												
	変 更 履 歴													
成 果 指 標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など		最終目標値							
	1	食生活及び離乳食への理解・興味を持って実践につなげてもらう	教室参加人数	人			270							
	2													
変 更 履 歴														

実 施 状 況 (D O 考)	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	197,085	223,000				
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円	44,000					
	地方債	円						
	その他特定財源	円	153,368	173,000				
	一般財源	円	-283	50,000				
	活動指標	教室実施回数	目標	回	18	18		
			実績	回	18			
達成率		%	100.00	-	-	-	-	
-		目標	-					
	実績	-						
達成率	%	-	-	-	-	-		
成果指標	教室参加人数	目標	人	270	270			
		実績	人	256				
	達成率	%	94.81	-	-	-		
	-	目標	-					
実績		-						
達成率	%	-	-	-	-	-		
備 考								

事務事業名	離乳食教室事業		事業期間	1999 ~	年度	係内番号	19
担当部署	健康福祉部	健康づくり推進課	健康推進係		連絡先	330	

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果要因分析	ごっくんともぐもぐを同時開催することにより、参加人数が増えた。毎月開催することにより、いつでも参加でき、ごっくんに参加すると次のもぐもぐの申し込みにつながっている。				
	総合評価	ごっくんともぐもぐを同時開催することにより、参加人数が増えた。離乳食を始めるきっかけになったり、仲間づくりの場になっている。				
	課題	参加者の多様な疑問に答えられるように、スタッフの力量をつけていくこと。				
改革・改善の方向性(ACIT)	成果やコストの方向性の内容	拡充 現状維持				
改革・改善の方向性(ACIT)	策 び 容	参加者からの要望に応じて、レシピを加えた資料作成や教室の内容を充実させていく。 スタッフの力量をつけ、参加者に満足してもらえる教室にする。				

作成担当者	神澤 活枝				
最終評価責任者	柳澤 澄子				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	食育事業	事業期間	～	年度	係内番号	20
担当部署	健康福祉部	健康づくり推進課	健康推進係	連絡先	330	

政策番号	01	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業		
			基本計画②	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業		
			実行計画	08	食育推進計画	0000	複数の柱にまたがる事業		

予 算 事 業 名	食育事業費	会計コード	02	款	04	項	03	目	03	事業	01
-----------	-------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 (簡潔にわかりやすく)
 親子料理教室：茅野市内の小学生を対象とし、楽しく料理や食育を学ぶとともに、親子のふれあいを目的に開催する。
 男性料理教室：茅野市内の男性を対象とし、栄養の知識と調理技術を身に付けることを目的に開催する。
 子育てママの料理教室：若い世代の食育推進を目的に、託児付き教室を開催する。
 病態教室：高血圧、糖尿病等の市民を対象に、予防の為に食事について学び、重症化予防を目的に開催する

現状と背景
 (どうして)
 生活様式が多様化、食の情報が増え、生活リズム・食生活の乱れが目立ち、生活習慣病も増加している。このような中で、様々なライフステージにおいて、健康を維持、増進したり、生活習慣病の重症化予防をするために、望ましい食生活を実践する力をつける必要がある。

目的
 受益者 (誰のために) 市民
 対象 (直接働きかける) 市民
 意図 (どんな状態にしたいか) 食に対する正しい知識を身に付け、健康意識を高め、自分や家族の健康増進のために望ましい食生活を実践する。

手段・方法
 (どうやって)
 親子料理教室：学校を通してチラシの配布、食育の話、調理実習、試食
 男性料理教室、子育てママの料理教室：テーマを設けて広報で募集。健康に関する話、調理実習、試食
 病態教室：広報、特定保健指導、医師との連携により募集。病態学習、調理実習、試食

評価指標の作成	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1	食生活改善の重要性の理解度の向上	教室実施回数	回	教室実施回数
変更履歴						
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
	1	食生活に興味、関心を持ってもらう	教室参加者数	人	教室参加者数	240
	2	望ましい食生活を実践してもらう	朝食で主食・主菜・副菜がそろっている人の割合	%	教室参加者と保健指導員アンケート結果	60
変更履歴	1について、目標を達成したため2019年度から目標値を変更する。					

実 施 状 況	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
財 源 内 訳	事業費等(a)	円	302,699	379,000				
	国庫支出金	円						
	県支出金	円	30,000					
	地方債	円						
	その他特定財源	円	235,555	311,000				
活動指標	教室実施回数	目標	10	11				
		実績	10					
		達成率	100.00	-	-	-	-	
	-	目標	-					
		実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	
成果指標	教室参加者数	目標	200	240				
		実績	234					
		達成率	117.00	-	-	-	-	
	朝食で主食・主菜・副菜がそろっている人の割合	目標	%	60	60			
		実績	%	38				
		達成率	%	63.33	-	-	-	-
備 考								

事務事業名	食育事業	事業期間	～	年度	係内番号	20
担当部署	健康福祉部	健康づくり推進課	健康推進係	連絡先	330	

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果				
	コスト					
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	～成果要因分析	料理教室の参加者数は、郷土料理講座や、糖尿病講座を開催したので、目標人数を上回った。 主食・主菜・副菜をそろえて食べる人の割合は、20歳代50%から38%と減少した。				
	総合評価	各料理教室では、簡単にできる昼食や行事食を提案し、バランスよく食べることが、気軽に実施できるようにし、満足度が高かった。				
	課題	主食・主菜・副菜をそろえて食べることについては、学習をこれからする、保健指導員に実施したアンケート結果であるため、低い値になった。				
	改革・改善の方向性(ACIT)策	生活習慣病を予防し、健康に過ごすための食事の摂り方について重点を置いた教室、講座にしていく。 2回の高血圧の予防講座を実施し、より多くの市民に病気の予防と食の大切さを学んでもらえるようにする。				

作成担当者	堀 美恵				
最終評価責任者	柳澤 澄子				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	食生活改善推進事業	事業期間	～	年度	係内番号	21
担当部署	健康福祉部	健康づくり推進課	健康推進係	連絡先	330	

政策 番号	01	基本 計画 体系	項目	計画CD	計画名称	施策の 柱CD	施策の柱の名称	実行計画 の施策の 柱におけ る指標と の関連度	高						
			基本計画①	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業								
			基本計画②	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業								
			実行計画	08	食育推進計画	0000	複数の柱にまたがる事業								
予 算 事 業 名	食生活改善推進事業費					会計コード	02	款	04	項	03	目	03	事業	02
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の育成、指導 ・会員の資質向上のための研修会を開催（健康・病態講座、料理実習） ・地区での料理講習会 														
現 状 と 背 景 (どうして)	生活習慣や食生活の乱れにより、市民の生活習慣病有病率が増加しているため、栄養・食生活の改善が必要がある。健康意識を高め、自分・家族・地域の健康づくりを推進する必要があるため、正しい知識を身につけたリーダーを育成し、地域に望ましい食生活を実践する人を増やす必要がある。														
目 的	受 益 者 (誰のために)	食生活改善推進員及び市民													
	対 象 (直接働きかける)	同上													
的 意 図 (どんな状態にしたいか)	会員が自分・家族の健康を考えたり、地域における健康づくりの推進を行う中で、市民の健康意識の向上を目指す。健康な茅野市づくりの担い手として、実践し活躍できるリーダーを養成する。研修会を開催し、会員の資質向上を図り、健康意識を高め、食に関心を持ってもらうことで、健康づくりをより推進する。														
	手 段 ・ 方 法 (どうやって)	毎月の研修会を通して、食の正しい知識、情報を食生活改善推進員へ伝えていく。食育ボランティア団体として、自ら地区料理講習会や市の事業等で行う、料理講習や食育活動ができるように、サポートしていく。													
評 価 指 標 の 作 成	活 動 指 標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値						
		1	研修会の開催（食改）	研修会開催数	回	研修会実施回数				14					
		2	地区料理講習会の開催	地区料理講習会開催数	会	地区料理講習会開催数				25					
	3														
	変 更 履 歴														
	成 果 指 標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		1	食生活に関心を持ち、健康意識を高める	研修会参加者数	人	研修会実施回数				460					
		2	食生活を改善しようとする人の増加	地区料理講習会参加者数	人	地区料理講習会参加者数				720					
	変 更 履 歴														

実 施 状 況 (D O 備 考)	財 源 内 訳	項 目	単 位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事 業 費 等 (a)	円	397,230	484,000				
		国 庫 支 出 金	円						
		県 支 出 金	円	67,000					
		地 方 債	円						
	活 動 指 標	研 修 会 開 催 数	目 標	回	14	14			
			実 績	回	14				
		達 成 率	%	100.00	-	-	-	-	
		地 区 料 理 講 習 会 開 催 数	目 標	会	25	25			
			実 績	会	28				
	達 成 率	%	112.00	-	-	-	-		
	成 果 指 標	研 修 会 参 加 者 数	目 標	人	460	460			
			実 績	人	471				
		達 成 率	%	102.39	-	-	-	-	
	地 区 料 理 講 習 会 参 加 者 数	目 標	人	720	720				
実 績		人	711						
達 成 率	%	98.75	-	-	-	-			
備 考									

事務事業名	食生活改善推進事業	事業期間	~	年度	係内番号	21
担当部署	健康福祉部	健康づくり推進課	健康推進係	連絡先	330	

事項	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	中 評	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化				
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)						
翌年度方向性		成果				
価	課長評価日	コスト				

事項	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	後 評 価 (C H E C K)	(成果) 変異動指標要因分析	年々保健指導委員会の活動が、減少していく中で、地区料理講習会の開催回数も、少しずつ減少してきている。			
総合評価		成果 食生活改善推進協議会委員の、育成研修会は、参加者も多く、実施できた。地区料理講習会の回数は、目標の回数を実施できた。				
改革・改善の方向性 (ACT)	課題	課題 食生活改善推進協議会委員の、育成研修会は、令和元年度は会員数減少のため、参加者数は同じか減少の見込み。地区料理講習会の回数は、保健指導員の減少する地区もあり、同程度か減少の見込み。				
		改革・改善の方向性の内容 翌年度方向性 成果 現状維持 コスト 現状維持				
策 び 容	内容	改革・改善の方向性の内容 食生活改善推進協議会委員や、保健指導員の会員数減少で、研修会の参加者や料理講習会の回数を増やすことはなかなか難しい。魅力があり、市民が健康づくりに関心が持てて、効率的な食育ができる研修・講習会が実施できるように工夫していく。				

作成担当者	藤森 ルリ子				
最終評価責任者	柳澤 澄子				
最終評価年月日	2019年5月17日				